

◇10月の代祷・信施奉獻先

われる。

▽野宿生活者支援のため(Ⅰ)

・日本聖公会第65(定期)総

▽薬物依存リハビリ施設の働

会とはオンライン形式で開催さ

きのため▽小笠原諸島におけ

れる。

る宣教拠点のため(17日教会

教区事務所関連報告

創立記念日)▽教役者緊急援

総主事報告

助資金のため(18日)▽社会

・立教女学院へのチャプレン

事業の日(25日)

派遣出向に関する覚書、およ

◇「主教司式の聖餐式」(11

総務・危機対応デスク報告

月22日まで)・「自宅で行う

・小笠原の賃貸物件への火災

主日礼拝」主教座聖堂のホー

保険加入について。

ムページアドレス

・インマヌエル新生教会の建

http://www.anglicanecathedral.

物解体工事契約について。

tokyo/

・文京区内施設非課税調査へ

◇常置委員会報告

の対応について。

■9月4日開催(定例)

・教区墓地礼拝中止に伴う、

・会に先立ち、財政委員長よ

各教会への諸連絡業務等につ

り来年度予算作成の準備に関

いて。

する説明がなされた。

財務主事報告

主教報告

・8月末までの会計報告

・小笠原聖ジョージ教会訪問

宣教主事報告

(8月18日~30日)について。

・中高校生代キャンプ(8月

・中部教区主教按手式(10月

15日~16日オンライン開催)

24日)は臨席者を限定して行

について。

■9月15日開催(臨時)

・小笠原の賃貸物件につい

て、火災保険に加入するこ

ととした。

・「礼拝休止期間中の信仰生

協議事項

活について」のアンケートを

・第136(定期)教区会、

実施

第137(定期)教区会の開

主教座聖堂主任司祭報告

催日程および開催方法につい

・「平和を祈る―広島・長崎

て、開催日時を11月23日、場

の原爆犠牲者のため」(8月

所を機械振興会館6階会議室

9日)、「平和を祈る―戦争の

を借用し、対面で行うことと

犠牲者を覚えて」(8月15日)

した。なお、議事の運営方法

をライブ配信にて実施

に関しては、議長と書記局に

協議事項

委ねることとした。

・執事按手式を12月19日に、

・インマヌエル新生教会に

臨席者を限定して行うことと

に関して、工事期間中、牧師

した。

が転居する際の引越費用は、

・第136(定期)教区会、

インマヌエル新生教会の負

第137(定期)教区会の

担とすることを確認した。

開催日程および開催方法に

また、池袋聖公会伝道所の

ついて、総主事、教務主事、

書記局間で協議してもらい、

その結果を臨時の常置委員

会(9月15日)にて協議・

確認することとした。

・小笠原の賃貸物件につい

て、火災保険に加入するこ

ととした。

■9月15日開催(臨時)

今週・来週の予定

10月18日~31日

- 18(日) 聖霊降臨後第20主日
- 19(月) 聖職養成委員会 web
- 21(水) 教役者レクイエム
- 24(土) 教区青年会 web
- 25(日) 聖霊降臨後第21主日
- 26(月) 常置委員会(臨時) web

土地・建物の売却について、
10月25日に臨時の堅信受領
者総会が開催される予定と
の報告を受けた。

10月25日に臨時の堅信受領者総会が開催される予定と

教区事務所関連報告

総主事報告

■ 10月1日 開催（臨時）

協議事項

・ 渋谷聖公会聖ミカエル教会

の大規模修繕工事に関して、

常置委員間の事前のメール

による稟議を経て、再度、報

告書面等を確認し、了承

・牛込聖公会聖バルナバ教会

に
関
し
て、
9
月
20
日
に
臨
時

堅信受領者総会が開催され、

2020年12月31日をもつ

て、教会の運営を終了すると

の決議結果の報告があり、こ

れを確認した。今後、聖バル

ナバ教会、建物、什器備品の

処分等に関する法的な手続き

については継続審議とし、そ

の方法等は総主事を中心に調

査・研究を進めることとした。

■10月12日開催（定例）

◆教役者レクイエム

日時…10月21日(水) 10時半

場所…聖アンデレ主教座聖堂

司式…高橋宏幸 主教

説教者…井口諭司 司祭

▽司祭 山田 助次郎▽主教 松

井米太郎▽司祭 河合 良隆▽

司祭 遠藤 敏雄▽司祭 青木 毅

三▽主教 八代 斌助▽主教 高

瀬 恒徳▽司祭 牛島 惣太郎▽

司祭 副島 虎十▽伝道師 長尾

よつ▽伝道師 前田 華江▽司

祭 坂下 内匠▽主教 山田 襄▽

司祭 竹之内 瑞男▽司祭 岡精

三▽司祭 速水 敏彦▽司祭 津

田 昌男▽司祭 福澤 道夫▽司

祭 村松 順道▽伝道師 小西 ト

キ▽司祭 片田 篤五郎

◆とこしえの平安

10月1日 古野 澄子 (73)

聖ミカエル

10月11日 尾張 愛子 (88)

聖アンデレ

10月14日 糟谷 恵 (67)

インマヌエル 新生

「信仰と生活・アンケート報告」

アンケート「礼拝休止期間

中の信仰生活についてのおた

ずね」に多くの回答をお送り

いただき、まことにありがと

うございました。回答数はイ

ンターネットでの回答351

件、郵送・FAXでの回答

179件の計530件でし

た。集計に少々お時間をいた

だきますが、結果を各教会に

配布する予定です。是非それ

ぞれの場でご活用いただけれ

ば幸いです。また、信仰と生

活委員会といたしましたも、

いただいた貴重なお声をどの

ように具体的にこれからの信

仰生活、そして宣教の働きへ

とつなげていけるのかを考え

てまいります。

信仰と生活委員会

【新型コロナウイルス感染症

患者のため・医療看護に携

わっている方々のため】

世の救い主よ、主は十字架

の苦しみによってわたしたち

を贖われました。どうか、わ

たしたち、ことにこの度の新

型コロナウイルス感染症の苦

しみ、不安の内にある人々を

救い、癒しのみ手を差し伸べ

てください。また、医療と看

護に携わる人びとの働きを助

け導き、み力をもつてその人

びとを守り、励ましてくださ

い。主イエス・キリストによっ

てお願いいたします

アーメン

【新型コロナウイルス感染症

によって亡くなられた方々の

ため】

永遠にいます全能の神よ、

新型コロナウイルス感染症に

よって尊い命を失った方々の

魂をすべての重荷から解放

し、主の聖徒とともに永遠の

み国で安らかに憩わせてくだ

さい。また、悲しみの中にあ

る方々に主の慰めが与えられ

られる主イエス・キリストに

よってお願いいたします

アーメン

主よ、世を去った人びとの

魂が、主の憐れみによって安

らかに憩うことができますよ

うに

アーメン

【新型コロナウイルス感染症

への対応について】

東京教区事務所は引き続き

開所時間を下記のようにさせ

ていただきます。

変更ある時はお知らせいた

します。

開所日…月曜～金曜

(休日を除く)

開所時間…午前10時半～12時半

午後13時半～15時半

皆さまのご理解とご協力を

よろしくお願いいたします。

東京教区事務所

【主教教書】16

ご降誕の時に向けて

2020年10月16日

東京教区主教

フランシスコ・ザビエル

高橋 宏幸

未だ収束の見えないコロナウイルス感染症の中、各教会・礼拝堂での慎重に慎重を重ねての最善の備え、対応に感謝申し上げます。

礼拝や設備等への調整や工夫を重ねておられる中、慣れていくことが良いものと、気の緩みという慣れてはいけな

いものがある中で、降臨節、降誕日、顕現節に向かい、教会委員会等での話合いが始められる時期になりました。インフルエンザへの不安も高まる折ですので、更なる慎重と

用心の上、諸々の判断をされますようお願い申し上げます。

殊にご降誕の期節には信徒でない方がたも加え、例年多

くの方がたの礼拝参加が見られます。しかし、未だコロナウイルス感染症収束の兆しが見えず、加えて第二波への懸念も専門家から出されている中に在りましては、これまで

も東京教区が大原則とし、確認し合ってきました「いのちを守り合うこと」「教会としての社会的責任を果たすこと」への対応を考えます時、

また引き続き「三つの密」を避けるために、例年のような多くの方がたに自由に参加していただく形は難しいことは歴然としています。

各教会・礼拝堂の規模や状況にもよりますが、礼拝回数、礼拝時間、礼拝参加形式への一層の配慮と工夫をお願い申し上げます。

また、例年行なわれている「クリスマス祝会・愛餐会」は、残念ですが自粛くださるようお願い申し上げます。

なお、主教座聖堂から毎主

日に配信しています聖餐式動画は、11月22日（降臨節前主日）をもつて一旦休止致しますが、その後の大祝日や教区礼拝の配信は別途検討致します。

今年は、主のご復活を集まって感謝し、祝うことができず、ご降誕も制限のある中でのこととならざるを得ません。物理的、身体的に共に集まることが難しい

時であればこそ、「場所ではなく場と霊的なつながり」の中に居られる主の働きを信じ、祈り求めましょう。既

にお伝えしていますように、万が一感染された方が出た際には速やかに教会、及び教区事務所総主事（下条司祭）宛に通知ください。プ

ライバシーには配慮し対応致します。罹患された方がたの回復、医療の最前線で献身、尽力しておられる方

がたのお働き、エッセンシャ

ルワーカーの方がたのお働き、生活上の不安、困難を余儀なくされている方がたへの支え、ご逝去された方がたの魂の平安と悲しみの内にある方がたへの慰め、そしてこの危機の収束を切にお祈り致しますよう。

また、罹患された方がたへの偏見や差別に陥らぬよう併せて祈りたいと思います。

主が憐れみをもつて、私たちの悩みを顧み、愁いと恐れを取り除き、み顔の光によって私たちに主を仰ぎ見る力と希望を注いでくださいますように アーメン

「日本聖公会第65（定期）総会を前に」

コロナウイルス感染症の収束が未だ見られない中、初のことですが10月27日（火）～29日（木）オンライン形式で日本聖公会第65（定期）総会が開催されます。今回は26の議案が協議されますが、その中で特に三つの重要な議案について記したいと思います。

1 「法規一部改正」の件

「宣教協働区・伝道教区制」という、教区制の改革を目指すものが主教会より出されます。その提案理由の中、以下のように記されています。

「本議案が提起する歴史的とも言える決断は、今後様々なレベルにおける具体的かつ丁寧な協議の積み重ねを必要としている。そしてその議論の中には、より幅広い信徒の奉仕職の在りようの模索が含

まれるだろう。今や私たちは、この時を主が与えたもう時と捉え、困難な経験へと共に踏み出す事を求められている。それは、私たちにとって挑戦的で創造的な旅の始まりとなるだろう。主教会は、日本聖公会が日本社会における責任ある福音宣教を、今後も継続的・発展的に担い得る器であり続けるために、この議案を提出する」

自教区の為だけでなく日本聖公会全体と一緒に考え、日本聖公会全体の宣教活性化のため、他教区と協働すべく複数教区による宣教協働区を設け、詳細は協働区に置かれる協働委員会で協議していくというものです。

東京は日本の首都であり大都会ですが、広く日本全体を見渡す時、また日本における宣教という、キリストの教会に託されている働きを考える時、私たち東京教区にとって

他教区に聴き、学ぶこと、協働していくことも決して少なくないと思えます。また、この提案は、これまでの日本聖公会の在り方を大きく変えていこうとするものであり、当然そこには不安や困難、戸惑いも伴い、今後修正等も生じ得ますが、「神様の働きの器」として活力が与えられることを祈りたいものです。

2 「2022年宣教協議会開催」の件

10年前「いのち、尊厳限りないもの―宣教する共同体のありようを求めて」と題して宣教協議会が開催されました。しかし、当初の開催目的は「信徒減少・高齢化、聖職者不足、教会建物の老朽化、財政の逼迫」「社会的に弱い立場におかれている人びとへのケア」「戦争責任を告白する日本聖公会が平和の器として用いられること」でしたが、

東日本大震災、福島第一原子力発電所事故を通して、「絶望の内にある人びとのかすかな声に耳を傾け、声を出せない人の『声』となっていくこと」「希望を奪われた状況の中に生きる人々に対して『にもかかわらず』神の祝福『いのちの喜び』を語り続けることの大切さを学び、日本聖公会の宣教の原点は、「教会内の牧会はもちろん、教会のある地域全体に対する牧会的働きを丁寧に実践していくこと」「地域にある課題、世界にある課題に誠実に取り組むこと」であると確かめ合われました。それから10年後の2022年開催予定の宣教協議会では、「宣教・牧会の実りの収穫感謝として分ち合うこと」、そして「これからの宣教方針、方向性」を探っていくこととなります。

2023年、東京教区は宣教100周年の年を迎えます。

す。宣教協議会開催の時にはその成果も踏まえて次の100年の歩みを探り、宣教の使命を果たしていきたいと願います。

3 「原発のない世界を求める国際会議」声明に賛同する件
「原発のない世界を求める週間」設置の件

日本聖公会は、脱原発と自然エネルギーへの転換を目指すこと、そして未だに決して解決したとは言えない2011年3月の出来事を風化させることなく、むしろ、あの出来事が語ることを聴き、学び、いのちを尊び、平和に生きる社会の実現へと歩み続け、「被造物の本来の姿を守り、地球の生命の維持・再生へのたゆまぬ努力を意識し、決意を確かめ合うものです。

前回宣教協議会は東日本大

震災発生翌年に開催され、当初予定のテーマが大きく変えられました。次回宣教協議会、そしてランベス会議（全聖公会主教会議）が2022年開催予定ですが、コロナウイルス感染症が世界中を脅威に晒し始めた二年後です。

そこに、私たちは改めて「いのちの宗教であるキリスト教」、そして「いのちに仕え、守り合うためにつながり」を心に刻み付け、それに基づいた例え小さくても具体的な働き、動きを生み出していきたく祈ります。

冒頭に記しましたように、重要な三つの議案を取り上げましたが、私たち一人一人が日本聖公会のメンバーであり、キリストの肢でもありますので、どうぞ関心を持っていただけることをお願い申し上げます。

また、今回の総会はコロナ

禍ゆえに、これまでとは異なる形式での開催となります。どうぞ、そのことも祈りの内に加えていただけますようお願い申し上げます。

なお、「日本聖公会第65（定期）総会を前にして」と題して、植松誠首座主教が書かれた文書が「管区事務所だより」(<http://nskk.org/province/>)から、また、「法規一部改正」について北海道教区で行われた勉強会の様子が、聖アンデレ主教座聖堂のホームページよりご覧いただけます。

日本聖公会東京教区主教

フランシスコ・ザビエル

高橋 宏幸

聖職、聖職候補生のつぶやき

10月1日

「群衆を解散させてください。そうすれば、自分で食べ物を買いに行くでしょう。」(マタイ 14:15)

他者に配慮したようだが、食事の無い人を視野から排除しようとしている言葉だ。自分も配慮しているように聞こえる言葉を用いて、面倒な事や痛みを覚える事を回避しようとしていないだろうか。

倉澤 一太郎 司祭

10月2日

「私は主、あなたの名を呼ぶ者」(イザヤ 45:3c)

血液型、性別、出身など、私たちはカタマリで「人」をくくり、わかった気になる。その人のことは何も知らないのに、わかった気分を味わえるからかもしれない。でも神は、私の属性を問わない。他でもない私をご存知だから、ピンポイントで私の名を呼ばれる。

上田 亜樹子 司祭

10月5日

「恋しい人の声が聞こえます。山を越え、丘を跳んでやって来ます。恋しい人はかもしかのよう、若い雄鹿のようです」(# 雅歌 2:8-9a)

聖書 には # ラブソング もあります。この箇所は教会の結婚式でも読まれる箇所のひとつです。大きな声で世界に向かって愛を叫ぶことは、人類救済の第一歩となります。

笹森 田鶴 司祭

https://twitter.com/tko_column